

検討の進め方

粉体ろ過法及び遺伝子検出法に関する科学的知見及び複数分析機関によるバリデーション結果を踏まえ、粉体ろ過法及び遺伝子検出法に関する以下の事項も含めて評価を行い、検査方法のマニュアル案を検討する。

さらに、これらの方法の導入やこれまでのクリプトスポリジウム対策の進捗等を踏まえ、クリプトスポリジウム対策レベル3／4の未対策施設及び対策導入済み施設に関する検査方法についても検討する。

1. 粉体ろ過法

- サンプリング装置、粉体ろ過カートリッジの入手可能性
- オーシスト等の粒子の補足効率
- 粉体ろ過サンプルの保存性
- 適切なケーキ厚とろ過圧、ろ過水量

2. 遺伝子検出法

- 検査法の感度・精度（クリプトスポリジウム等検出の反応特異性、他生物の検出可能性）
- 検鏡法と比較して十分な感度の有無
- 少数の場合の検出可能性
- 同一試料の繰り返し試験による再現性
- 市販キット等の水準に関する提供すべき情報
- 検査者に対する注意事項（コンタミ、試料分解、酵素失活等）
- クロスチェック方法、反応産物の解析